

サーキュラーエコノミーに貢献

廃プラを素材・資源化

ノウハウ生かし解決法提供

リファインバースグループは、廃プラスチックを素材化・資源化するソリューション提供により、多様な産業におけるサーキュラーエコノミー実現に貢献していく。産廃処理という廃プラの入り口と、資源化・素材化に必要なノウハウという出口の双方に強みを持つ独特の立ち位置を生かし、廃プラ処理に課題を抱える事業者に解決法を提供している。従来、自社工場でのリサイクルを主体としてきたが、顧客の要望に応えるため、コンサルティングから必要な機械設備の製造販売を含めたノンアセット型の事業も育成。三菱ケミカルとのケミカルリサイクル（CR）事業により、マテリアルリサイクル（MR）だけでは対応できない廃プラにも対応していく。



越智社長

なければという認識が広がってきた」と語る。

同社はタイルカーベットのリサイクルに特徴的な技術を保有し、この分野では圧倒的なシェアを持つ。さらにも漁網やエアバッグなど

らに範囲を広げ、千葉県の2工場に加え愛知県にも工場を設けて、自社工場での

資源化・素材化ビジネスを成長させてきた。プレコンシューマー関連ではPSU（ポリスルフォン）のようなスーパーエンジニアのリサ

予定している。

7月には、資本業務提携する三菱ケミカルと同社の

油化のケミカルリサイクル

設備向けに原料となる廃プラを調達することに

基本合意。品質的にマテリアルリサイクルに向かないものは、ケミカルリサイ

クルとして焼却、熱利用が主体だった廃プラの用途が今後、マテリアルリサイ

クル、ケミカルリサイクルへと大きくシフトしていくことが確実視されているが、

「まだ大きなプレーヤーのいないフルオーシャンの市場であり、ここに積極的に事業を展開していく」。

出すためにも、廃プラは発生する場所で処理する方が経済合理性が高い。発生場所でも適切に処理することも一つのモデルとなる。北海道の鈴木商会と取り組む廃棄物のリサイクルが一例で、鈴木商会の新工場でのリサイクルするための生産技術や生産設備一式などのリソースをリファインバースがリソース。リサイクルナイロン樹脂はリファインバースが販売することを

三菱ケミとケミカルリサイクルも

設備向けに原料となる廃プラを調達することに基本合意。品質的にマテリアルリサイクルに向かないものは、ケミカルリサイクルとして焼却、熱利用が主体だった廃プラの用途が今後、マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクルへと大きくシフトしていくことが確実視されているが、「まだ大きなプレーヤーのいないフルオーシャンの市場であり、ここに積極的に事業を展開していく」。

三菱ケミカルおよび大日本印刷とは、ブロックチェーンに向けた実証試験も行った。廃棄物を資源として扱うには必ずトレーサビリティの問題が出てくる。そこを担保する仕組みが必要。もともと同社は産廃事業において顧客も使用できる廃棄物の幹幹システムを構築しており、そのプラットフォームを継続して行っている。今後、出口から入り口までをつなぐプラットフォームを作り上げることが課題としている。

リファインバース

プラスチックの問題が世の中でクローズアップされている。越智社長は「プラごみの社会的問題をどう解決するかということ、カーボンニュートラルに向けてサーキュラーエコノミーへの移行が急速に進んでいること、この2つの要素が相まって、単なる掛け声でなく、本当の事業としてスタートアップする仕組みをもた

ただ、効率的な静脈サイドのバリューチェーンを作り

出す三